

岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム 活動紹介 かわら版

第62号
R7.12.1

コンソーシアムの活動状況を知っていただくため、不定期でかわら版を発行しますのでご一読ください。

● 日独連携シンポジウム 2025

10月28日（火）～30日（木）に森林文化アカデミーにて、日独連携シンポジウム 2025を開催しました。当日はコンソーシアム会員を含む約130名の参加者が集まり、予定時間を超えるほど熱した議論が交わされ、参加者にとって非常に有意義なシンポジウムになりました。森林文化アカデミーでは、ドイツ・ロッテンブルク林業大学と学術活動や人材育成に関する連携覚書を2014年に締結し、両校の相互利益につながる活動に、当コンソーシアムも関わってきました。

本シンポジウムにあたり、ドイツ ロッテンブルク林業大学 Bastian Kaiser 学長、同大学 Sebastian Hein 教授とユースファーム メーリンゲン職員のAntje Fydrich氏が来日されました。

28日（火）、Kaiser氏による「持続可能な森林管理と木造建築」と題した記念講演では、ドイツの地理的特徴、歴史を踏まえた森林、林業・木材関連産業の現状をご説明いただきながら、これから森林、林業・木材関連産業の話を、森林教育的視点を交えながら、お話ししていただきました。

その後、涌井学長、Kaiser学長、元農林水産事務次官の末松広行氏、住友林業株式会社 執行役員/コーポレート本部副本部長の飯塚優子氏、森林文化アカデミーの松井匠准教授を交え、「今後の森林・林業・木材産業界が目指すべき姿とそれを担う人材」と題したトークセッションを行いました。会場の出席者から多くの質問が挙がり、会場が一体となったトークセッションとなりました。



記念講演の様子



トークセッションの様子

29日（水）、30日（木）はドイツから来日した方々を講師として招き、3つの分科会を開催しました。

<林業分科会> 10月29日（水）

ドイツ ロッテンブルク林業大学のSebastian Hein教授から「針葉樹高価値材生産に向けた将来木施業」と題した講義を午前中に行い、午後から、実際に美濃市の森林に入り、木材生産に関する「将来木施業ワークショップ」を行いました。



ワークショップの様子



Hein 教授



講義の様子

<木造建築分科会> 10月29日（水）

森林文化アカデミーの辻充孝教授、同アカデミー小原勝彦教授、同アカデミー松井匠准教授、岐阜県林政部県産材流通課消費対策係長中村恭氏による「日独の木材利用における発展的連携に向けてMino Recommendation: 今後の木材活用に向けた『美濃宣言2025』」と題したパネルディスカッションを行いました。



辻教授

松井准教授



小原教授

中村氏

パネルディスカッションの様子



木造建築分科会の参加者記念撮影

<森林環境教育分科会> 10月29日(水)、30日(木)

ドイツ ユースファーム メーリンゲン職員
アンティエ フィートリヒ
Antje Fydrich氏及び森林文化アカデミーの萩原
裕作教授が講師として、講義、ワークショップを行いました。Fydrich氏からドイツにおけるユースファームの歴史や活動内容等の紹介があり、その後、参加者がユースファームの活動を疑似体験しました。最終日は、森林文化アカデミー内にある今年で5周年を迎えた森林教育施設morinosについて、Fydrich氏、morinosスタッフや利用者らで今後の在り方について話し合いがありました。



講義の様子



ワークショップの様子

コンソーシアムで取り組んでほしい活動などありましたら、事務局までお気軽にご連絡ください。

発行：岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム 事務局（岐阜県立森林文化アカデミー内）
〒501-3714 美濃市曾代88 / TEL:0575-35-2535 / FAX:0575-35-2529
E-Mail: gifu.shinrin.conso@forest.ac.jp